



笹森花絵

Hanae Sasamori

4

INTERVIEW

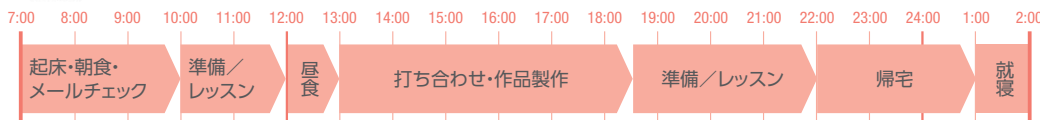
## ぬくもりを感じるアートな看板で 人の心と交流できる作品をつくりたい

チョークアートは、あざやかな色合いと手描きならではのぬくもりが魅力。これは柔らかいオイルパステルを使用し、黒板に描いた後に特殊塗料でコーティングして仕上げるので、水に濡れても大丈夫なんです。また、デジカメ等で撮影して紙にプリントしても、その風合いは失われないので、ポストカードや絵本などでも展開しています。

幼い頃から絵を描くのが好きで、次第に創作活動をしていきたいと思うようになりました。あるときインターネットでチョークアートを発見し、その美しさに一目惚れ。東京まで習いに行くなどして技術を習得。塗り絵感覚でつくることができるので、子どもでも楽しめます。だから多くの人にチョークアートを楽しんでもらいたくて、イベントや講習会を行っています。まだ手探りで活動していますが、まずは多くの人にチョークアートを知ってもらえる機会をつくっていききたいですね。



### タイムスケジュール



チョークアート教室を開催している日のスケジュール。レッスンがない日はほぼ創作活動（仕事）をしている



### PROFILE

1986年、余市生まれ。短大進学とともに札幌市へ。さまざまな職種を経験しながらチョークアートを学び、現在はチョークアーティスト「シアワセ色の看板屋さん」として活動中。  
<http://www.hanasasa.net>

### 現在の仕事(活動)について

チョークアーティストとして、看板、メニューボード、結婚式のウェルカムボード、その他記念日の似顔絵の受注製作・販売をしています。チョークアート・デッサン・水彩スケッチ講師のほか、イラストレーター、デザイナーとしても活動しています。

### プライベートの過ごし方

姪っ子と甥っ子と遊ぶこと。



- ① 毎週火曜チョークアート教室を開催
- ② 飲食店から依頼を受け制作したメニューボード
- ③ 大人向けのチョークアート教室も好評
- ④ 制作したチョークアートは撮影などすることでポストカードやフライヤーにすることもできる

## 色彩豊かなチョークアートの魅力を発信

### 「やりがい」だと感じられること

看板のオーダーが増え、似顔絵や結婚式のウェルカムボードはほっこりできると好評です。自分の作品(仕事)が誰かのよこびになっていると実感できたときはうれしいですね。1日の大半は創作活動なので、自分の生き様が作品になっているのもおもしろいです。

### 忘れられないエピソード

結婚しても子どもが産まれても続けられる仕事をしたけれど、何をしたいかわからず、やりたいことが決まらなくてフラフラしていた時期、ヤル気はあるのに気持ちのやり場がなく精神的に苦痛でしたが、それ以上に協力してくれる方がたくさんいて救われました。

### 仕事と家事の両立で工夫していること

未婚なので具体的にはありませんが、時間と場所を決めて、気持ちの切り替えスイッチを考慮しておくことが大事だと思っています。家族の協力を得るには、きちんと説明して理解してもらうこと、小さな成果や結果をちよつとずつでも見せていくのがいいと思います。

### 女性が活動する上で不足していること

女性が活躍できる支援や取り組みはあると思っています。ただ、家族や子どものことなど、ひとりでは解決が難しいこともあり。「女性」だからではなく社会人のひとりとして社会に参加でき、「女性」であることが特長になるのが理想ではないでしょうか。

### 札幌を拠点に活動することについて

札幌は大きすぎず、小さすぎず、コミュニティーのネットワークをつくるちょうどよい規模。これからどんどん発展して行く可能性を感じるので、札幌を活動拠点にする意義を感じます。そして、なによりも札幌の穏やかでおおらかな人柄が多いのも魅力。

### 社会で女性が活躍することについて

いつの時代も活躍する女性はたくさんいます。ぶれない意思を貫いてきた「熱意」が、勇気と希望を与えたいと思います。問題に立ち向かって解決しようとする姿には尊敬と憧れを抱きます。自分もそのような存在になって、誰かのためになりたいです。

### 今後の目標・展望など

チョークアートの看板を出している通りをつくって、街中がギャラリーや美術館のような雰囲気になったら、もっと札幌の雰囲気が良くなるのではと思っています。札幌のよさ、ブランドをもっといろんな場所で知ってもらうために貢献していきたいです。

### 活動を望む女性へのメッセージ

3歳の姪っ子はなんでも「やってみたい」と言います。でもその気持ちとアピールは大事。これはできないけど、これならできるかも…というのは自分が決めることではないのです。言い続けていれば、チャンスをくれる方がいます。熱い気持ちは恥ずかしがらずに言ったもん勝ち!